

映画・映像アートマネジメント人材養成講座

映画をとおしたバリアフリーを考える

スケジュール

1月11日 [土]	13:00-17:00	全体ガイダンス / 講義①映画におけるバリアフリーとはなにか
1月18日 [土]	13:00-17:00	講義② 音や声で映画を見せる! / 講義③ 文字で映画を見せる!
1月25日 [土]	13:00-17:00	講義④ 出張上映 / 講義⑤ デザイン
2月8日 [土]	13:00-17:00	講義⑥ こどもと映画① / 講義⑦ こどもと映画②
2月15日 [土]	13:00-17:00	講義⑧ 映画の配給・宣伝 / 講義⑨ 映画の法律問題
2月22日 [土]	13:00-17:00	講義⑩ / 講義⑪ 上映企画実践 [企画立案]
2月23日 [日]	10:00-16:00	ワークショップ
2月27日 [木]	13:00-20:00	イベント準備
2月28日 [金]	19:00-21:00	イベント本番
3月8日 [土]	13:00-17:00	講義⑫ / 講義⑬ 上映企画実践 [企画プレゼンテーション] / 講評
3月15日 [土]	13:00-20:00	シンポジウム+映画上映

募集要項

期 間 2014年1月11日(土)～3月15日(土)
授 業 日 毎週土曜日の13:00-17:00(ワークショップ、イベント、シンポジウムをのぞく)
会 場 日本映画大学、川崎市市民ミュージアム ほか
受 講 資 格 18才以上。学歴・経験の有無は問いません。
募 集 人 数 20名。定員になり次第締め切ります。
募 集 締 切 2013年12月26日(木)
授 業 料 15,000円(教材費・イベント参加費・消費税込)
申 込 方 法 下記アドレスより、お申し込みください。
http://www.eiga.ac.jp/exchange/art_management/form.html
※やむを得ない事情により講師・授業日程等を変更する場合があります。予めご了承ください。

お問い合わせ

日本映画大学
映画・映像アートマネジメント人材養成講座 事務局
〒215-0014 神奈川県川崎市麻生区白山2-1-1
Tel: 044-328-9123

講座ホームページ
http://www.eiga.ac.jp/exchange/art_management/index.html

日本映画大学ホームページ
<http://www.eiga.ac.jp/>



2013年
12月9日
募集開始!
(26日まで)

さまざまな分野で活躍する講師陣を迎え、
自分の住む地域のなかで、
より多くの人々に映画を届けようとする人材を
育成する実践的なプログラム

日本映画大学 JAPAN INSTITUTE OF THE MOVING IMAGE

映画・映像 アートマネジメント 人材養成講座

平成25年度 文化庁 大学を活用した文化芸術推進事業

映画をとおしたバリアフリーを考える

2014年1月11日 [土] ▶ 3月15日 [土]

主催 日本映画大学
協力 川崎市アートセンター / 川崎市市民ミュージアム / KAWASAKIしんゆり映画祭 / 多摩美術大学芸術学科映像文化設計ゼミ

日本映画大学
JAPAN INSTITUTE OF THE MOVING IMAGE



文化庁
POWER UP CULTURE

映画・映像アートマネジメント人材養成講座

映画をとおしたバリアフリーを考える

主旨 映画館での興行に加え、映画祭や各種の上映会など、地域社会で映画に接する機会はますます増えています。それは同時に、地域コミュニティのニーズに応えながら、映画の知識をそなえてきちんとプログラムを組み、上映を行うことができる「映画をみせるプロ」の存在がもためられていることでもあります。文化庁の「大学を活用した文化芸術推進事業」の一環として開講する本講座は、川崎市・新百合ヶ丘地区にある日本映画大学を母体とし、市内や近隣の芸術文化関係の諸施設と連携しながら「映画をみせるプロ」の養成をめざします。

内容 本年度のテーマは「映画をとおしたバリアフリーを考える」。さまざまなハンディキャップを持つ人々や、高齢者、子どもなど、映画や映画館へのアクセスが難しい人たちを含めて皆と一緒に楽しめる上映環境を整えるには何が必要なのかを考えていきます。視覚障害者・聴覚障害者のための対応、上映者が映画とともに çıkけていく出張上映から、上映施設のハード面についての考察、子どもたちが映画に接するワークショップまで、バリアフリーと映画に関する諸項目と、映画上映に係る基本的なことから（配給、宣伝、法律など）を学びます。さらには実際の上映イベントや、バリアフリーと映画をテーマとした国際シンポジウムに参加します。

講義

① 映画におけるバリアフリーとはなにか

山上徹二郎 株式会社シグロ代表

記録映画『毎日がアルツハイマー』(12)のバリアフリー版や、性のオープン化をめざす「エロティック・バリアフリー・ムービー(エロバリ)」シリーズを製作する、注目のプロデューサーによる基調講義で本講座の幕が開きます。

② 音や声で映画を見せる!

松田高加子 ディスクライバー / Palabra 株式会社

目の不自由な方々に映画を届けるためには何が必要でしょうか。登場人物の行動や場面転換などの視覚情報を音や声にして解説する音声ガイドの世界を体験します。

③ 文字で映画を見せる! 聴覚障害者のための日本語字幕

蒔苗みほ子 | 西山萌 NPO法人 メディア・アクセス・サポートセンター

現在、総務省では2017年度までに対象番組の100%字幕化を目指しています。耳の不自由な方々が映画や映像を楽しむためには、セリフや音情報を日本語字幕にして伝えることが必要です。こうした「映像翻訳」の仕事の工程を説明しながら、作業のなかで尊重すべきことは何かについて考えます。

④ 出張上映

鈴木直巳 有限会社鈴木映画代表

映画を観る場所は、映画館だけではなく。学校、福祉施設、野外上映など、場所に応じて映画や映像を上映する機材や費用が異なります。また、フィルムからデジタルへと上映素材が転換していくなかで、映写環境もまた大きく変わろうとしています。さまざまな上映をサポートしてきた経験を参考にしながら、映画館のない地域に映画を届けるための技術的な知識を学びます。

⑤ みんなが映画を楽しむことができるデザインとは

磯村歩 モビリティデザイナー / 株式会社グラディエ代表取締役

映画を上映する施設やその設備のなかで、導入すべきバリアフリーとは何でしょうか? ユニバーサル・デザインのあり方を学びながら、社会の結節点となっていくような映画館をイメージします。

⑥ 子どもと映画① 子ども映画教室を立ち上げる

——実践のために必要なこと

土肥悦子 有限会社シネモンド代表 / 子ども映画教室代表

映画鑑賞会のみならず、子どもたちを対象とした映画体験の場にはどのようなものがあるのでしょうか。金沢子ども映画教室をはじめとするさまざまな事例を検討し、目指すべき子ども映画教室の企画実現のために必要な知識や考え方を学びます。

⑦ 子どもと映画② 社会のなかの「子ども」を考える

村上朗子 川崎市アートセンター | **大道優子** KAWASAKI U14映画祭事務局

子どもが参加するワークショップの企画・運営と同時に、子どもを通じた映画と社会との接し方について学びます。託児制度や子ども同伴の映画鑑賞、「子ども向け」とされるプログラムの是非などについて、映画館、映画祭の立場から検討します。

⑧ 映画の配給・宣伝～バリアフリーの観点から

中野理恵 株式会社バンドラ代表

韓国映画『ラスト・プレゼント』(01)の副音声付き上映や、記録映画『アイ・コンタクト もう1つのなでしこジャパン ろう者女子サッカー』(10)のプロデュースを手がける映画製作・配給者の観点から、上映環境に配慮した配給・宣伝について考えます。

⑨ 映画の法律問題

柳原敏夫 弁護士

購入もしくはレンタルしたDVDで上映会を企画するのは問題ないのでしょうか? 具体的なケースを考えながら、著作権をはじめとする、映画を上映するために必要な法的知識について学びます。

⑩～⑬ 上映企画実践講座

藤岡朝子 山形国際ドキュメンタリー映画祭ディレクター

石川翔平 ホル・ホレ東中野

石坂健治 日本映画大学教授 / 東京国際映画祭プログラミングディレクター

ほか「バリアフリー」をテーマにした特集上映のワークショップを行います。受講生は各自の企画案のプレゼンテーションを行い、それぞれについて映画祭や映画館の運営に携わるプロフェッショナルが講評します。最もすぐれた企画案は、実際に劇場プログラムとして実現される予定です(2014年6月予定)。

[上映企画実践講座(2コマ) / 企画プレゼンテーション / 講評]

ワークショップ(一般講座・実践研修) ※受講生以外の方も参加できます。詳細は後日HPで発表

子ども映画教室

講師=土肥悦子 有限会社シネモンド代表 / 子ども映画教室代表

会場 川崎市市民ミュージアム **開催日** 2014年2月23日(日)10:00-16:00

川崎市市民ミュージアムの施設を最大限に活用して、小学生を対象とした子ども映画教室の運営を行います。工作、撮影、編集、スタッフワークなどを子どもたちが学ぶ一方で、映画を未来に伝え続けていくために、どのような方法があるのか検討します。



©子ども映画教室

イベント(一般講座・実践研修) ※受講生以外の方も参加できます(28日のみ)。詳細は後日HPで発表

音と映像を感じる——『眠り姫』アコースモニウム上映

講師=七里圭 映画監督 | **檜垣智也** 作曲家・演奏家

会場 川崎市アートセンター **開催日** 2014年2月27日(木)[準備]13:00-20:00 / 28日(金)[本番]19:00-21:00

映像と音を「見る」「聞く」だけが「映画」ではありません。人間の感覚を最大限に拡張し、映画を身体で「感じる」ために、音楽と映画を融合したパフォーマンス上映を企画する実践的な研修を行います。受講生は、映画をアコースモニウムで演奏するという実験的な上映を教材として、広報活動、会場の設営、当日の運営を学びます。アコースモニウムとは、電子音響音楽をコンサートで発表するために開発された多次元立体音響システムです。コンサート会場に自由に配置する複数のスピーカーを操作することによって、多様な音響空間を表現します。この分野では日本の第一人者である檜垣智也氏を迎え、声と気配で物語をつづる特異な映画『眠り姫』を、この作品の監督である七里圭氏の演出で、上映・演奏します。



© charm point

シンポジウム + 映画上映(一般講座) ※受講生以外の方も参加できます。詳細は後日HPで発表

映画とバリアフリーをめぐって

パネリスト **天願大介** 映画監督 / 日本映画大学教授 | **石坂健治** 日本映画大学教授 | **土田環** 日本映画大学准教授 | ほか、海外ゲスト予定

会場 日本映画大学新百合ヶ丘校舎 **開催日** 2014年3月15日(土)13:00-20:00

本年度の映画・映像アートマネジメント人材養成講座を総括するために、海外から講師を招聘して、「映画におけるバリアフリー」をテーマにしたシンポジウムを行います。映画監督、映画プログラマー、映画研究者など、さまざまな立場から、映画と社会との結節点を模索します。作品上映あり。

さまざまな事情で映画館へのアクセスが困難な人がいます。そんな人たちを含めてみんなが楽しめる上映の環境は、どうすれば実現できるのでしょうか。この講座で一緒に考え、実践してみませんか。